

雑品倉庫

第68号



社会福祉法人唐池学園協力会
令和元年7月発行

ここにも亦、平和と敬虔と
休みなき精進とがありはしないか

◀ 目次 ▶

- 特別寄稿「つぼみ保育園の昭和・平成」 P 1
- シリーズ連載「千鳥足の価値観」 P 2
- シリーズ連載「野の花のこと」 P 4
- 職員寄稿「出会いの力」 P 5
- 施設の紹介
 - （ 児童養護施設 唐池学園（P6）、児童養護施設 強羅暁の星園（P7）
 - （ 乳児院 ドルカスベビーホーム（P8）、つぼみ保育園（P10）、
 - （ 吉岡保育園（P11）、障害者支援施設 貴志園（P12）
- 令和元年度新任職員紹介 P 15
- バックナンバー紹介「昔の事ども」 P 16
- 平成 30 年度決算報告（法人単位貸借対照表） P 18
- 会費・寄附金をいただいた方々の紹介 P 19
- 令和元年度イベントのお知らせ P 20
- 役員等名簿・編集後記 P 21
- 裏表紙「各施設の所在地等」



昭和 42 年 5 月、綾瀬で初めての保育所として開園しました。木造で三角屋根の美しい園舎で、南側の広いベランダは子供達のお気に入り、にぎやかな声が絶えませんでした。

緑豊かな雑木林、けや木はシンボルの樹木でした。園舎の下の小川には蒲の穂が見られ、夏には蛍も飛びました。山菜のたらの芽やウドなどもありました。

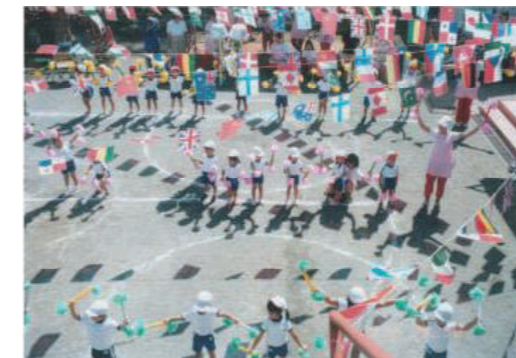
園庭には大きな蟻の巣、だんご虫、でんでん虫など、子供達は昆虫がどこで見つけられるかを知っていて、青い小さな雨蛙は紫陽花の木、クワガタやカブト虫は何処の木をゆらすと落ちてくるかも解っていたようです。



昭和 53 年市制、その頃より、厚木基地の騒音が烈しくなり、木造園舎では防音が無理でした。昭和 62 年、防衛施設局の決定で、1 級防音で鉄筋コンクリート、冷暖房完備の園舎が完成しました。出入口の戸が重くて、手や指を挟まないかと気遣いながらの生活でした。

保育も、産休明けから預かり、朝夕の延長保育の人数も多くなりました。絵を描いたり、本を読んだりしながら、お迎えの保護者を待ちました。

「お疲れさま、ちょっと一休みしませんか？」、声掛けにホッとする時を大事にしました。一日の保育の終わりに、みんなが微笑みと優しさに満たされていました。



運動会は、小さな園庭が、ご家族や卒園児などで満杯になり「ガンバレー」の声援で園児は大張り切りです。マスゲームは大拍手です。保護者有志と保育士チームのムカデ競争は圧巻で、プログラムの最後は松組の紅白リレー、応援と歓声で会場が一体となり無事に終わりました。

鈴割の鈴の付け方、万国旗の張り方など、準備から片付までご協力を頂き、本当にありがとうございました。

行政のご指導と地域の方々の思いやりのある支援は、開園以来続き、お芋掘り、お餅つきなど季節の行事を楽しく行うことが出来ました。

保育園は、「楽しく」「安全で」「安心できる」よう毎日の保育を行ない、明日へとつなげていきたいものです。「声かけ」「連絡」「記録」することでチームとしての一体感を持ち、夢を語り会えれば素晴らしい限りです。

令和の時代を迎え、来年は東京オリンピックが開催されます。小さな温かい気持ちの積重ねが、世界の人々の交流を深めます。子供達も人々の交流を経験する良い機会です。わくわくしながら応援しましょう。

新しい時代、平和で希望と喜びを持ち、日々を過ごせることを念じています。

第 68 号刊行に寄せて

唐池学園協力会 会長 高松 邦夫

昨年度、12 年ぶりに雑品倉庫を刊行したところ、久しぶりの刊行にもかかわらず、たくさんの方から会費やご寄附をいただきました。

ここに改めてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今回、昨年に引き続き、第 68 号を無事に発刊することができましたが、皆さまからいただいたご厚情を糧に、今後も定期的な発刊ができるよう協力会としてもサポートしていきたいと思ひます。

さて、前号では、西暦 1978 年（昭和 53 年）発行のNo.42 号に掲載された藤沢市善行の時代に作られた唐池学園の園歌を紹介しました。「祖国の歴史～影暗く～♪」と、当時を懐かしんで口ずさんでくださった方もいらしたのではないかと思います。そんな唐池学園は、西暦 1945 年（昭和 20 年）10 月 28 日に創設され、令和元年を迎えた今年（西暦 2019 年）で 74 年を経過するに至りました。私は「温故知新」という言葉が好きでよく使いますが、唐池学園の歴史を知ることで、新たな何かが発見ができると思ひます。

そこで今号では、雑品倉庫第 46 号（1995 年 12 月発行）に掲載された先代理事長の鶴飼正男先生がしたためた創設当初の記事を是非皆さまに紹介したいと思います。（P16-17 をご覧ください。）



有賀 唐

この機関紙を愛読していただいている皆様が私の駄文に目を通された時にはもう『令和』という呼び名は感覚的にすでに国民の中にある程度落とし込まれているのではないかと思います。

ということで前号では、「平成という時代は30年という年月があったにもかかわらず、私の中ではあっという間に過ぎ去った時代であった。」と、平成時代の感想を述べましたが、さて、『令和』はどんな時代になるのでしょうか。

命名は当時、九州の太宰府の長官だった大伴旅人主催で催された祝宴の席での場面からということですが、そこから意図を読み取ると、「梅の木の下で、和気あいあいと楽しく酒を飲みながら歌を詠み、口角泡を飛ばしながら談義を交わし、世の中も今宵の宴のように平和で穏やかであつたらいいな。」との願いが込められてのことではないかと想像します。また、当時の時代背景は大伴一族と藤原一族との間に権力の座を争う政治的な状況下にあったのではないかと想像します。ですから旅人の胸中はそのような複雑な思いもあつたのではないのでしょうか。



ちょっと脱線しますが、この大伴旅人は万葉集に出てくる歌人の中ではこよなく酒を愛し、また大酒呑みではなかったかと思えます。そして酒を詠んだ歌が最も多い歌人ではないかと思えます。私も嫌いではないので、ここでいかに旅人が酒を愛したかという歌を2、3紹介してみます。

『しるしなき 物を思わずば 一坏(ひとつき)の 濁れる酒を 呑むべくあるらし』

つまらないことで悩んでいるよりも、一杯の濁酒を呑んだほうがまだよ。

『この世にし 楽しくあらば 来む世には 虫にも鳥にも 我はなりなむ』

この歌もいい。現世で楽しく酒を飲んでいられたら、あの世に行って、虫にも鳥になっても悔いはない。という意味だと思います。酒が好きな人は、「わが意を得たり。」と微笑んでいる余人も少なからずいられるのでは。

『あな醜(みにく)賢しらをすと 酒飲まぬ人をよく見れば 猿にかも似む』

特にこの歌はいい。何故か？おもしろいのは、酒を飲めるくせして飲まないのは猿にも似ていると、比喻しているところがいい。飲めない人間に無理矢理飲め。と、弱いものいじめで言っているわけではないのです。

旅人の酒の歌には喜びも悲しみも含めユーモア満載です。

皆様も折角の機会ですから万葉集を紐解いてみたらいかがですか。他にも私の好きな歌人で旅人の異母妹にあたる大伴坂上郎女という人がいますが、彼女に恋の歌を歌わせたら右に出る人は

いないのではないかと考えています。ちなみにこの一句が彼女の歌です。

『恋ひ恋いて 逢える時だに 愛(うつく)しき こと尽くしてよ 長くと思はば』

久しぶりにお会いしたのだから、惜しまずに思いっきり、何度でも「好きよ。好きよ。・・・と、言って。」という意味です。1300年前も女性は凄かった。

また、古今東西、昔より宴会を毛嫌いしたり、悪習という人もいますが、かの有名なプラトンも『饗宴』という小説の中で「宴会は、始めは恋愛論から始まり末は哲学論議になる。」と、言っています。ですからわれわれ凡人が飲みながら議論を交わすのはプラトンのお墨付きを貰ったようなものです。ですから決して人目を憚りながら盃を交わすことはないのだと思います。飲み過ぎて他者に迷惑をかけるような飲み方は論外です。



ここでまた『令和』のことに戻りますが、昨今、気になることがいくつかあります。一つは世の中の風潮が、人それぞれの生き方を含めて物事の判断を『正しいか、正しくないか』、『善か、悪か』というような道徳的な規準、つまり社会的な規範で生きているような気がしてなりません。それはそれで決して間違いではないのですが、何か優等生的な感じがしてなりません。むしろ人生の羅針盤があるとしたら『面白いか、つまらないか』、を基準で生きていく方が例え失敗しても悔いは残らないのではないのでしょうか。

もう一つはオルテガ*が言っているように平等という名の下で平均化が行われ個性を抹殺しているのではないかという危機感です。決して平等を否定しているわけではなく、本来人間が生まれついた時から持っている最も大事な個性というものを出しにくい社会構造になってしまっていることへの嘆きみたいなものです。

是非、『令和』という時代は決して歌謡曲の歌詞にでてくるような『北の風吹けば北を向く、西の風吹けば西を向くような右顧左眄的な風潮に押し流されるような』人間を排出しない世の中に、そして『浮いた世間に媚びを売るような』人間社会にならないようにしたいものです。

そして、「お互いがお互いに認め合え、他人の意見に耳を傾ける寛容な世の中」にしたいものです。



* オルテガ (ホセ・オルテガ・イ・ガセット)

スペインの哲学者、思想家 (1883-1955)

主著に『ドン・キホーテをめぐる思索』、『大衆の反逆』などがある。

オルテガの思想は、「生の理性」をめぐる形成されている。「生の理性」とは、個々人の限られた「生」を媒介し統合して、より普遍的なものへと高めていくような理性のことである。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア』

本人の意思に関係なく決められるものの一つにその人の名前があります。そこには名付け親としての思いがにじみ出るものです。そこに親の思いが感じられ、本人も気に入ったものであればそれはどんなにか幸せなことでしょう。

ところで、植物の世界にも耳を傾けてみるといろんな声が聞こえてきます。

まず最初に、マメの仲間特有の白い花を房状にぶら下げ、蜂蜜の提供と花の香りを漂わせるニセアカシアくんの声から…、「ニセアカシアとは随分失礼な名前だとは思わないか？ わざわざアカシアに似せて生まれてきたわけでもないのにさ、しかもアカシアとは本来は黄色い花を咲かすあのミモザのことだと言われたりするとこんがらかってまいっちゃうよ、とにかく何かのニセモノなんて名前絶対いやだよ、ハリエンジュという別の名前があるのだからそれを使ってほしい」(実はこのハリエンジュ、かつて蜜源や砂防として盛んに植えられてきましたが、近年増えすぎて在来種を駆逐するほどとなり、現在侵略的外来種ワースト100に指定されています。さんざん恩恵を被って

いながら今更何よ！という気もします。そして養蜂業者の人はそれには反対しているのです。でも気にするでしょうからこのことは本人には内緒にしておきましょう)

さて次なる声はドングリをつけるブナの仲間のマテバシイくんの声「待てばシイになれるということにつけられた名前だとするとむなしくなるよ。何十年たってもなれっこないのに、そんなの何の励ましにもならないよ、第一何でシイの木になることがすばらしいことなの？ 僕は僕です。僕の大きな葉っぱとドングリは自慢なんです。背が高く均整の取れたドングリは独楽や笛を作って遊べるし。また、このドングリは全然苦くもなくシイ君のように食べられるんだよ」

それを聞いていたアスナロくん、そうだそうだと手をたたいて話し始めた。「いやあ全く僕もそう思うよ、アスナロとはどういうことだと思っ？ 明日はヒノキになろうという意味らしいけど大きなお世話だと思うよ。ヒノキなることを夢みて生きていくなんてまっぴら、僕は身体は大きいし木材も良質で、殺菌性をもつヒノキチオールという成分は僕の方が断然多い位だ。そして水や湿気に耐えるので土木用材、建築用材、船舶などに使われているんだよ」 そうですね。このヒノキチオールは防腐剤として食品業界で、又育毛効果があっ

て美容業界でも重宝されているように、アスナロはヒノキに勝るとも劣らない優秀な樹木なのです。

ところで話は変わるけど ヘクソカズラ君、ハキダメギク君、イヌノフグリ君、ショウベンノキ君、クソニンジン君 ママコノシリヌグイ君、君たちも何か言いたいことがあるんじゃないか？



ニセアカシア



マテバシイ



アスナロ

人との出会いには力がある。この雑品倉庫の文章の依頼を受け、私が真っ先に感じたことである。出会いの力。言葉だけを聞くとありきたりな言葉かもしれないが、人と人とが会おうと生まれるものがある。それこそが大げさに言うと今、社会、福祉業界、皆の求めているものではないか。それは物語。充実や感動、達成感や幸せは物語によって生み出されているのでは、と強く感じる。私にはそのことを実感した経験がある。夏休みの4日を利用して強羅から北海道を旅し体験した、人との出会いの力について少しだけ話をさせて頂きたい。

何かに挑戦したいと考えていた3年目の私を動かしたのは上司だった。「この休みの間にヒッチハイクで北海道の最東端、納沙布岬で朝日を見ることを目標に行ける所まで行ってみたら？」・・・。

次の日の職員朝礼で私は夏休みにヒッチハイクで北海道に行くことになっていた。そして次の週にはなんと旅を鼓舞するメッセージの書かれたTシャツを職員一同より渡され、旅に出ているのだ。

そう、私よりも面白かった周りの勢いが私を突き動かしたのだ。出発してから最初のヒッチハイクはガソリンスタンドで行った。たまたま東京本社から箱根支店に来ていた銀行勤務の方が乗せてくださり、英語の名言

「Hitch your wagon to the star. (限りなく大きな夢を抱きなさい)」になぞらえて「Hitchhike to the star.」という味の深い言葉とともに、海老名まで運んでくれた。

最初がこれでは最低でも東北には行かないと格好悪いなと思いつつ、深夜の海老名サービスエリア、時間帯も悪く半ば乗車を諦めていると、1人の強面の大柄な男性に目が惹かれる。「ご飯をこれから食べるから・・・」と断りを入れられたにも関わらず1時間程出待ちをしていると、「まだおったんか。いいよ。」の一言。私と同じ関西出身ということもあり、沢山の人生の経験を聞き、「自分に似合う服と同じで、自分のことをしっかりと理解していないと社会では活躍できないよ。」と「似合う服と着たい服の違い。」との例えで社会人生活での教えを頂き、気付くと埼玉へ。そこから、あれよあれよと乗せてもらい、出発から気付けば2日目の朝には函館の港にいた。すぐにでも北海道らしい物を食べたいと考えていると「ちょっとトイレに寄っていいかな？」と乗せてくれていたドライバーがトイレから戻った手には、今詰めてくれたばかりという、かに飯。朝のコンビニでは「今から仕事だから乗せられないんだけど・・・」と出勤前のおじさんが手には差し入れの朝ご飯。お風呂に入りたいと思っていると突然、観光バスが止まり老人会の方々がバスで案内してくれ温泉街に送ってもらい。約1400kmの移動に疲れる間もなく、納沙布岬で朝日を見ていたのだ。そして気が付くと雑品倉庫の文章を書いている。

人、1人で出来ることは本当に小さい。旅に出るとつくづく思う。人と出会うことが旅ならば、仕事も人生も旅である。人との出会いには力がある。少しでも感じてもらえたでしょうか。そして次はあなたの番です。この雑品倉庫を通じて、あなたが人と出会い、新たな活動や感動を生む物語を創造されると信じている。最後まで読んで頂きありがとうございました。



児童指導員 松川 愛梨：文 保育士 南部 理江加：絵

唐池学園で働き始めてもう1年が経ちました。新任職員を迎えて、先輩として始まる2年目はやはり大きな不安が伴います。雑品倉庫にコメントを載せることになり、改めてこの1年を振り返りました。私は一体どんな職員になりたいのだろう。

1年間働いてみて、子どもとの関わりの中では、理不尽な怒りをぶつけられることも多くありました。正直、お部屋に行くのが辛くて仕方がなかった時期もありました。彼らや彼女らの背景にある悲しみが原因であることは理解していたつもりだったけれど、私はいつも正しいことを正しいと伝えることしかできませんでした。理不尽な怒りを何故こんなにもぶつけられなければならないのか。そのことにただ腹を立て、傷付き、落ち込むばかりでした。本を読んで話を聞いて勉強しても、知識にいくらも心が追い付かない毎日でした。怒りをぶつけられたときには、すぐにそれを誰かに話すことができないときもありました。そんな風に、怒りをぶつけられてしまう自分の未熟な関わりを、人に伝えることが怖かったからです。



しかし、そんな日々の中でも子どもたちに救われました。怒りをコントロールすることができないことや、私の存在への葛藤などを話してくれることがあったからです。怒りをぶつけてしまったことを謝りにきてくれ、そのときの思いを話してくれるということは、私のことを職員として、2号室の一員として、ある程度認めてくれたということなのだと思い、嬉しくなりました。そういうときには私も、そのときに感じたことや思いを正直に話します。自ら謝りに来てくれるときの彼女らは、とても穏やかでこちらの思いもとても良く聞いてくれるのです。



1年たった今も、彼女らとの怒りのやり取りは以前と変わらずにあります。その度に傷付くし、その度に気持ち良くやり取りが解決するわけではありません。しかし、私はそんな彼らや彼女らの話がもっと聞きたい。葛藤や悲しみや寂しさをぶつけてほしい。私と話をすることで、思いを言葉に出来る子どもが増えれば良いなと思います。言葉にすることで、少しでも気持ちの整理が上手になってくれたらいいなと思います。私は子どもたちに、今よりももっと、生きていきやすい自分を見つけたい。そうして幸せになってほしいと強く願っています。これからも、子どもたちと関わるのが辛くなってしまふことはあるのだと思うけれど、私は『みんなに幸せになってほしい』と言う気持ちだけは、どんなことがあっても忘れずに思い出せる職員でありたいと思います。

以上

昨年、今年と20代の職員を2名ずつ新たに迎え、ベテラン揃いの唐池学園にフレッシュな風が吹いています。この4月で2年目に入る2人に1年を振り返ってもらいました。

統括主任 梶田 寛人

前号では強羅暁の星園野球クラブが創設10年目にして神奈川県児童福祉施設野球大会で念願の初優勝を飾った記事を書かせて頂きましたが、子ども達の勢いは止まることを知らず、なんと平成最後の同大会でも優勝し、2連覇を達成してくれました！



日々練習に励む男の子達から女の子達も刺激を受け本格的に「女子ソフトボールクラブ」も始動！そのため手一杯になってきた職員達を地域の野球部や複数の少年野球チーム&ソフトボールチームが支援をして下さるようになり、強羅暁の星園の「一生懸命な気持ちには、一生懸命応える！」という輪が広がりを見せています。これからも強羅暁の星園の活動に乞うご期待！！

強羅暁の星園＝スポーツという印象がかなり広まっているようですが、決してそんなことはありません！実は職員バンドもあります！ その名も・・・「Satoken Band」園長佐藤健の親しまれてきたニックネームが由来です。今年、発足しました。感動の涙より、何故だか笑いと子ども達に多くの自信を与えてしまうバンドの仕上がりです（汗）。いいの・・・いいの・・・「笑う門には福来る！」



○平成30年度採用職員コメント



1年目は幼児寮で勤務し元気一杯に駆け回る子ども達に追い付こうと、必死に後ろを追い続ける毎日でした。2年目からは女子寮配属になりましたが、これからもゆっくりと時間をかけて子ども達に寄り添っていきたいと思います。（白石）



就職できた喜びと不安を抱えスタートをしましたが、自分の思い描いていた理想と現実の違いにとっても苦しみました。それでも頑張れたのは、いつも温かく見守って下さる先輩方と子ども達の笑顔のおかげです。2年目も頑張ります！（兵藤）

里親支援専門相談員 渡辺 美香

前回にドルカスでは小規模ケアを行っている事をお話ししました。“らら”と言う名がついた子ども4人のユニットのある日の散歩をお伝えします。3月下旬、つくしが沢山芽吹く、天気の良い日でした。「魚を見に行こう！」と元気な職員の声掛けによりはじまりました。このユニットは3才児が1人、1才児が3人です。



それぞれが靴下を履いて、かばんやリュックを持って出発です。因みにリュックやかばんを持つことが子どもたちの流行りです。目的地は川の魚が見える橋までです。1才児の中で1番



小さい子が疲れてしまったら、予定は変わります。さて、貴志園の間を通らせてもらって、桜のつぼみがでてきた坂道を下って、川沿いを歩いて、橋に行きます。橋から下に見た魚（鯉）はすごい数でした。帰り道ではジュースを買いました。お部屋に戻って、皆で飲みます。歩けるか心配だった1才の子は、なんと！すべてを歩き切りました！1.5kmくらいの距離を2時間かけての散歩でした。

「今日のお昼寝は爆睡だね！」と職員が言っていました。天気もいいし、私はゆっくり歩く1才の子と手を繋いでいたのですが、どんどん散歩を楽しんでいる子どもの気持ちが伝わって、天気以上にあったかい気持ちになりました。



散歩っていいですねー♪ 楽しいですね♪春ですね♪子どもと歩幅を合わせて歩くのに、最適な季節です♪唐池学園も、貴志園も桜がとってもきれいに咲きます。これもまた楽しみです♪



ドルカスベビーホームに就職して1年経ちました♪“の4人の言葉

＊ 看護師 栗原 結子

仕事を始めて1年が経ちました。自分の子どもを2人育てていますが、集団となると難しいものがありました。少しずつ慣れてきて、周りを見る余裕が出てくると、なぜか子ども達が次に何をしてくれるのか、ワクワクして待っていることがありました。好みではないごはんでも思わず“アーンと口を開いていたり…。”声の大きさやトーン、同じ声かけでも全然違いました。そこに気付いてからは、じょじょに子ども達との関係ができてきたと思います。これからも先輩たちに学ばせてもらいながら子ども達との生活を楽しまたいです。

＊ 栄養士 横山 美希

色々な事をたくさん学べました。栄養士としてだけでなく子どもに関われたことは私にとって新たな目標が出来るきっかけにもなりました。

＊ 保育士 中川 真緒

初めての仕事、初めての夜勤、初めての担当、たくさんの初めてをドルカスで経験して、自分の欠点に日々悩み、マイナス思考になりがちでした。そんな中でもドルカスの子ども達や職員さんの関わりを通してこの仕事の楽しさや誇らしさを実感し、子ども達と一緒に少しずつ成長することができた一年になりました。4月から一番下の“一年目の新人”ではなくなることにまた少し不安をもちつつも初心を忘れずに子ども達と楽しく過ごしていきたいです。

＊ 保育士 尾曲 藍依

大学を卒業して初めて社会にでてずっとやりたかった“保育士”になれてとても楽しいです。子どもたちは想像していた以上に可愛くておもしろくて、一人ひとり全然ちがって毎日新しい発見があります。それぞれが全然違うので子どもらしさはこれからもずっと学んで行くことだと感じました。

また、自分に余裕がなくなって“子供らしさ”を考えられずに関わってしまったことはたくさんありました…。もっともっと楽しく子どもたちと過ごせるように頑張ります!!!

里親センターひこばえ「3日里親ってなあに？」

里親活動の一つに、児童養護施設などで生活する子どもを週末や夏休みなどの短期間だけ受け入れる3日里親があります。



お泊りして、お手伝いしてたくさんほめられちゃった。

一緒に買い物してごはんを作ったよ。おいしかった！

おばあちゃんちのはのんびりできるんだ。



里親家庭での生活体験は、自立に向けた生活のイメージになり、自分だけを見守ってくれる人や、会っていないときでも応援してくれる人がいると子どもにとって大きな心の支えになります。

「ちょっと話を聞いてみようかな」と思う方、ぜひお電話をください。

里親センターひこばえ ☎046-205-6092 開所日：月・水・金・土 10時から16時

つぼみ保育園「子どもたちのパワーを糧に」

副主任保育士 山田 怜美

平成30年4月に新たな園長を迎え、職員は期待・戸惑い・伝え合うことの難しさを感じながら、「つぼみの良いところ・つぼみってこんなところ」を伝えてきた1年でした。より良い保育を目指し、職員間で話し合いを重ねることで、少しずつ一つの方向に向かうことができたのではないかと感じています。そんな中でも元気一杯の挨拶と薄着での生活で、今日も沢山走り回っている子どもたちからパワーをもらい、保育に取り組んでいます。

つぼみ保育園は昭和42年、綾瀬市内で最初に開所した保育園です。隣接する公園と遊歩道は、日々の保育の中でも活用し、自然に触れる楽しさや公共の場所を使うマナーなどを伝えています。

子どもたちは日々薄着で過ごし、戸外で遊ぶことを中心としながら、季節ごとの行事や伝統行事にも触れています。餅つきやどんど焼きといった行事は、家庭だけではなかなか経験できないものではないでしょうか。現在の定員は110名、生後3ヵ月から就学前までのお子さんをお預かりし、個々と丁寧に接しています。また、地域の施設を訪問し交流を深め、皆さんに見守っていただいています。



餅つきの様子（手前は鶴飼理事長）

最後に、平成30年度新たにつぼみに仲間入りした職員が1年を振り返って・・・

保育士 緑 日南子

私が保育士として初めての1年間で感じたことは、今まで味わったことのない充実感です。

学生の頃は朝早くに起きて学校へ行き、アルバイトとの両立でした。寝る頃には日付を越える毎日で、何も考えずに生活してきました。その中で少しずつ、夢であった「保育士」という職業に向かって勉強をし、実習を経て夢を叶えることができました。毎日の終わりにその日を振り返り、反省や相談をする中で、次の日に活かしていくということが自然と身に付いたように感じます。

時には悩み、戸惑うこともありましたが、先輩方にご指導を頂き、保育者としての成長を自分で感じることもありました。また、協力することの大切さを知り、連携を図ることで成り立つ保育の現場を見ることができました。自分の発言が子どもたちに伝わり、言動として反映されることへの責任感や、毎日の積み重ねが大事であることを子どもたちから学び、一緒に成長してきました。



保育者として働く中で大変なことはとても多いですが、私にとって一番充実感が得られる職業であると思っています。この先、経験年数を重ねるごとに知識を高め、子どもたちの豊かな成長を支える役割として、これからも自分なりに保育の世界を広げていきたいと思っています。

吉岡保育園「新しい保育のかたちを目指して」

主任保育士 吉村 真由美

昨年度より幼児クラスを3・4・5歳児の異年齢クラスの編成をしました。これまでも生活から活動において、年齢の枠を超えた関わりはありましたが、それをさらに日常的な環境として位置づけるために編成したものです。これにより、今まで以上に関わりが深まった、というわけではありません。しかし共に過ごす中で、遊びを見て学んだり、会話を聞いて学んだり、お互いの存在を感じる距離は近くなりました。もちろん、お友達が泣いていたり、困っていれば、年長児の子ども達が声をかけてあげたり、保育者に知らせてくれます。年長児は憧れのお兄さん、お姉さんとしてみんなに慕われています。そして、その背中を見て年下のお友達は育っていく、その育ち合いが吉岡保育園の大切にしているものです。

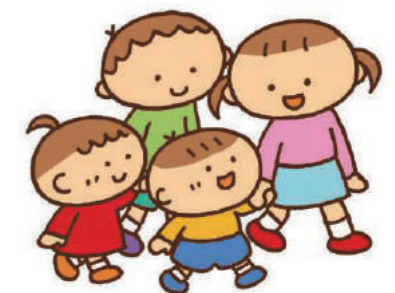


「一年を振り返り」 保育士 祖父江 弥生

吉岡保育園に入り、色々な先生方に教えて頂きながら何とか仕事をこなして来られた感謝を感じています。先生方に交わりながら自然体で過ごせたので既に前からいるような感じになっているかと自分の中では思っていますがどうでしょうか？今年度は特に小さい月齢の乳児を担当し一年の子どもの成長は凄いと改めて感じています。引き続き、自分らしくこれからも頑張ります。

「2歳児担任をして」 保育士 濱田 恵美子

楽しみな気持ちと不安がある中4月を迎え子ども達と対面してあっという間に1年が経ちました。1年を振り返ると大変なこともたくさんありましたが子ども達の可愛い笑顔やサポートしてくれる先生方に支えられて乗り越えることができました。また子どもの生活面や内面の成長を身近で見て、改めてやりがいを感じる事が出来ました。この1年学んだことを生かし日々成長していきたいと思っています。



「一年を振り返って」 保育士 難波 麻衣

あっという間の一年間でした。最初は先輩たちについていくのが精一杯で自分なりの保育を見つけることができるか不安だったが、だんだん慣れて来て毎日を過ごしていく中で少しずつ自分なりの保育を見つける事が出来てきました。また、私は一歳児担当で最初、緊張から私の声を子ども達にたくさん届けることができなかったため、たくさん声をかけていきたいです。四月から後輩も入ってくるので前年度を活かして頑張っていきたいです。

マーレ貴志園（相談支援事業）「 一年を振り返って 」

相談センターゆいまーる 八重樫 謙



相談センターゆいまーるは、障がい者が地域で安心した生活が送れるよう、行政・福祉・保健医療・教育等の機関と連携し支援を行っています。福祉サービスを利用する為に必要なサービス等利用計画作成では、障がい種別を問わず綾瀬市の方を中心に140人程度担当させて頂いています。また、平成29年10月から設置

された綾瀬市障がい児者相談センター（基幹相談支援センター）では、サービスをご利用でない方等、在宅生活を送られている障がいのある方（家族含む）の生活全般に関する相談や、市内の相談支援事業所の連携や人材育成、さらには障害福祉以外の他制度との連携や地域づくりを目的とした自立支援協議会の運営も行っています。

昨年度を振り返ると、多岐に渡る相談支援の仕事に携わる事になり、利用者、関係機関の皆さんと出会い多き一年であり、学びのある一年となりました。今年も誰もが住み慣れた地域で暮らしていく事ができるように頑張っていきたいと思えます。



マーレ貴志園（グループホーム）「 仕事と余暇の充実 」

地域支援課 林 愛佳

グループホームで生活している利用者は、施設に通って仕事をしている人や企業など会社で仕事をしている人など様々です。仕事にやりがいを持ちながらも大変な事や辛い事も経験しながら日々を過ごしています。私たち職員は利用者の日々の仕事の悩みを聞くことはもちろん、豊かな生活を目標に定期的な外出支援や余暇の充実を図っています。個別に担当職員と外出することや、ガイドヘルパーを利用し旅行に行くこと、グループホーム全体のレクリエーションを企画することなど色々な人と関わりながら経験を増やしつつ、気分転換をして仕事や生活のモチベーションを保てるように支援しています。30年度は、グループホーム全体で箱根寄木細工体験に行きました。皆さん得意不得意がありますが、メンバー同士教え合いながら完成することができました。



今後も仕事と余暇を充実し、生活を豊かにできるように楽しい企画をしながら毎日の活力になるようにサポートしていきます。

コペルタ貴志園（日中支援課）「 生産を通じて共に成長する 」

日中支援課 鈴木 徹

日中支援課では、町の工場（こうば）の基調を醸し出す場「生産」を通じて産業化を図り、第1工場では循環資源に携わり、第4工場ではオリジナル製品で量産に努め、利用者と共に成長してきました。

障害福祉サービスにおけるスタイル（生活介護事業・就労継続支援B型事業・就労移行支援事業・就労定着支援事業）は利用者それぞれ違いますが、生産と云う共通の場所で皆さんは活躍しています。

全国展開する循環資源産業の地元企業や、手作りで安心、天然素材のスキンケア製品やソープ類俗用化粧品のブランド企業と取引させて頂く事で、更に気を引き締め、ハイスペックな支援を目指しています。

働くことに特化したコペルタ貴志園の伝統を踏襲しつつ、レベルの高い生産に伴うリスクヘッジを極めていく事と、個別性に視点を向け、それぞれ持つストレングスに寄り添って支えていきます。

共に成長し続けているのを実感し、今後も同時に、社会経済活動のアスリート（企業就労）を支援していくスペックも高めていきます。



コペルタ貴志園（食品支援課）「 そうだ！ 今年は一服館でそば打ち体験！ 」

食品支援課 松原 英子

食品支援課では、手打ちそばうどん、製パン、お弁当、園内給食、ジャム製造等、多種の作業を展開して利用者の支援を行っています。

地域の方々に、自分達で製造した商品や事業所の知名度を上げる為には、どの様な事が必要なのかを課内で話し合いました。着目したのは「子ども達」。成長過程で、何か吸収してもらえ事があるのではないかと具体的に検討し「そば打ち体験」を通じた「親子の絆づくり」が企画されました。従来、大人が対象のそば打ち体験でした



が、子ども達を対象にした事で経験を積んでいく機会を演出し、そこに保護者の方も関わる事で事業所の理解が得られると思えました。また、それらに応えられるよう「安全で安心」な商品作りを利用者と共に進めています。

今年是非、「そば処一服館」でそば打ち体験をしてみてください。パンフレットは法人各事業所や近隣保育園に配布しております。詳しくは、お電話でお問い合わせください。



私たち生活支援課（施設入所）では、18歳以上の障害がある方（主に知的障害や精神障害）を対象に生活全般の支援を行っています。日々の関わりの中で、人との関係の築き方や、困った時にはどのようにしたら良いかを一緒に考え、時には共に悩み、利用者さんの夢や希望の実現の為に日々一緒に歩んでいます。



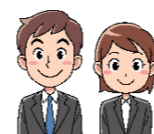
利用者さんは自分の好きな物を買ったり、旅行に行ったりと、それぞれ楽しいと思う事はひとり一人違いますが、楽しい事を増やしていくためにはどんな事があるのかな？と、利用者さんと一緒に考え、一緒に楽しむことが一番のやりがいと実感しています。

にじいろ貴志園(放課後等デイサービス)「みんな綾瀬の子！穏やかな笑顔でお迎えます」

にじいろは寺尾南に事業所を構える放課後等デイサービス事業所です。綾瀬市の地域ニーズに応えるため市内に住む障がいのある子どもたちに門戸を開き、4年半が経過します。

一昨年秋からは、医療的ケアの必要な子どもの利用も始まりました。当初は看護師との関わりを重視していた子どもも今では体調確認時からソワソワ…「早く友達と遊びたいよ！」想いが身体いっぱい溢れています。看護師や支援員との良好な関係を通して安心感を得られた子どもは仲の良いお友達をつくり外へ外へと繋がりを広げています。

今日も学校へお迎えに行くと「にじいろさん来た！」と子どもの活気ある声が届き、車中では「今日〇〇ちゃんいる？やった！」と笑顔が咲きます。支援員も笑顔で応え、子ども同士の関わりを応援しながら共に過ごす時間を大切にしていきたいと思っています。



所属	氏名	趣味・特技	抱負
唐池学園	千葉 郁佳	ピアノ	一日一日を大切に、子どもたちと過ごせるようにがんばります。
	三浦 菜千夏	読書・絵を描くこと	人それぞれの良さに目を向け、自分を活かして頑張っていこうと思います。
強羅暁の星園	金川 快斗	趣味：魚を捌くこと	みんなから信頼される大人になりたいです。
	小杉 理和	趣味：ミシンで縫い物	誠心誠意、人とのつながりを大切に邁進したい。
ドルカス ベビーホーム	井上 望美	フラダンス、 美味しい物を食べる	笑顔で元気に楽しく子供たちと過ごしたい。
	廣幡 多恵	読書（推理小説以外）	皆様に美味しかったと言われるよう頑張ります。
	穴戸 暁子	カラオケに行ったり、食べ放題に行くのが楽しみ	早く仕事を覚えて、一人前になりたい。
	石井 朋子	パッチワーク、ピアノ	初心を忘れずに、子どもと関わっていききたい。
	石川 友美	おもちゃ作り、食べる	楽しく元気に丁寧な関わりを大切にしていきたい。
	柳澤 千秋	海（宮古島）に行くこと、 酒を飲むこと	未経験ですが、仕事を覚えて子どもとの関わりを楽しくできるようにがんばります。
	本橋 優子	絵本の原画展に行くこと	好き嫌いのなく元気に退所できるよう、美味しいご飯作りをしたい。
吉岡保育園	佐藤 佳代	カラオケ	美味しい給食を作る事です。頑張ります。
	高田 あゆみ	食べる事	元気いっぱい頑張ります。
	中台 千琴	水泳	毎日、笑顔で頑張ります。
	丸岡 夢	舞台観賞・踊る事	子ども達のモデルになる！！
貴志園	竹内 奏人	バスケットボール	利用者の痒い所に手が届く支援をしたい。
	正田 史	ドラマを観ること	『地域で暮らす』を考え続ける。
	鳴海 藍	卓球	一日一日を大事に生きる。

【新任職員の特権！？】

今年度の新任職員 19名は、4月22日から23日にかけて行われた新任職員宿泊研修に参加しました。この研修は、福祉人としての心得や人権擁護、職場内における報連相などを学んでいただくため3年前から毎年実施しています。今年は、箱根町総合体育館でスポーツも行いました。宿泊先は、今年も、箱根町でも指折りの豪華温泉旅館「ホテル河鹿荘」でした。

この研修の充実した内容が写真に写る皆の表情からもうかがえると思います。



雑品倉庫 No.46 (1995年12月1日発行)に前理事長の故鶴飼正男先生が、唐池学園の創設当初のことをしたためた記事を見つけましたので紹介させていただきます。

なお、所々に、ともすると不適切と思しき表現等もありますが、当時のことに思いをはせ、原文そのままに掲載しておりますので、どうかご了承ください。

「昔の事ども」 1945年10月28日 一ある鮮やかな憶い出—

前理事長 故 鶴飼 正男 先生

五十年前の事になりました。

広い川中の流れの彼方に霧が立ち込めているような按配で、自分の体験なのに記憶から隠れてしまい、具体的な細部はどうしても思い出せない所がある反面、川向こうのある一点だけ陽が当たってそこは鮮やかに見えるように、半世紀も前のことでありながら昨日よりも鮮やかにいつも憶い出に甦る情景もあります。

十月二十八日は、養護施設唐池学園の創設記念日で、職員方は休日です。何故その日を創設日に決めたかを話してみましよう。

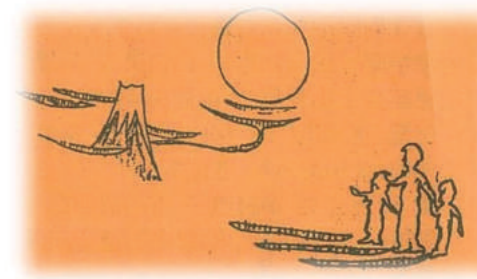
私事から始まって恐縮ですが、敗戦の年 — 昭和二十年、1945年 — の五月頃から、当時タブロイド判だった日刊新聞紙上に戦災孤児が激増して大都会では浮浪児化しているとの記事がのり始めました。私自身の個人的な事情が背後にあって、その記事を凄く胸を痛めながら読みました。大人が始めた戦争の実害を、何の罪もない子供が直に蒙るとは何てこったという公憤があり、また私の両親とも既に病没していましたから、戦争が終わったら一人でも二人でも戦災孤児を引き取って世話してやりたいと思いました。いくら 26 才の若造とはいいい、それがどんなにむづかしい仕事になるか、第一金もなければその道の師もない一人身で、あるのは情熱だけであとは皆無というのは心得ていましたから、始めて見てもどうせ長くは続かないならそれでやれる所までやって果てよう、とそんな気持ちでした。それで八月十五日に戦争は終わり、勤務から解放された九月のある日、浮浪児が居ると噂で聞いた上野駅の地下道に行ってみました。行く前は新聞記事だけから想像してあの広い駅周辺でも二人か三人位の子供が乞食をしていて、見つけるのは大変だろうナと一方的に思い込んでいました。所が、行ってみたら目の前にはいたる所にうじゃうじゃと戦災浮浪児が群をなしていたではありませんか。これはショックでした。正に頂門の一針でした。

それからあとは無我夢中で、藤沢に飛行場を作るために建てられていた労務者用のバラックを当局から借りる交渉から始まって、食糧や衣類や薪炭の確保、それに職員集め — 幸いな事に大学時代の戦友が手伝いに来てくれました。 — 等細かいことは忘れてしまいましたがとにかく目が廻るような忙しさで日々が流れてゆきました。あとで考えると知らぬが佛というか盲人蛇に怖じずというか、打算のない者の強さで方々を駈けずり廻りました。そうこうしているうちに、十月下旬になって、子供を連れて来て一緒に暮らせるめどがつかしました。 — と云ってもあの頃の事ですから、来れば何とかなるだろうという期待が大半だったのですが、 — それで私は、横浜は桜木町の駅前

にあった戦災浮浪児用の天幕に行きました。とにかく大きな軍用天幕でその真中で燃やしていた薪だけが明かりで、当然中は煙だらけで中に何人くらいの人か分かりません。火許から離れて天幕の端の方に寝かされていた人々は或いは既に屍体であったかもしれません。とにかく薪を燃やす煙とギューギューにつまった人いきれとその体臭やボロ口から出る何とも言えぬ異臭をこらえながら入り口に一番近くにいた若い男に、これこれでこの中にいる戦災孤児をつれてゆきたいと訪れた主旨を話しました。「そんな話だったら明晩親分が来るから相談しな」という返事でした。翌日指定された時間にまた同じ天幕を訪ねました。親分という人が待っていてくれました。角力取の様な立派な体格で顔も高倉健の若い頃に似た好男子でした。それにあの当時和服に角帯、雪駄でしたから天幕の中の浮浪者の群とは丸で異質な感じでした。が、『何と気障な』とこちらが思う前に、私に対する礼儀正しさにまずびっくりし、それに敬語を正しく使い、教養さえ感じさせびっくりしました。その彼が「この子らが行きたがっているが」と二人の男の子をつれて来ました。漠然と五、六才の幼児を想像していた私の前に十四、五才に見えた浮浪児というより不良少年と言いたくなるような面構えの子で内心辟易しました。がそれは面に出さず、少し遠いが藤沢のはずれの唐池という所で私や友人達と一緒に暮らす気があるかと尋ねました。意外にも声を揃えて「行きたい。行きたい。」とはっきり言いました。そこで二人に私が持参して来た新しい大人用の作業服を着せ、靴がないというので混紡の厚地の靴下を一人に三枚ずつはかせ、両方の手に彼らの片手をしっかりとつかんで天幕を出ました。若親分だけ外まで見送りに来てくれました。 — 二、三か月あと噂で聞いたのですがその若親分はヤアさん同志の争いで敵方に刺殺されたそうです。 —

当時の事ですから電車も自動車も超満員で私と浮浪児二人の異様な姿を見ても好奇の瞳をよせる人も眉をひそめる人もいません。やっとの思いで藤沢下車、そこから小田急に乗り次の本町という所から歩きました。線路沿いに暫く歩いて左折し、途中で修道院のある長い長い坂を二十分ほどかかって昇りきると、海軍の藤沢飛行場の滑走路に出ました。三千里級の本格的なもので北端には着陸に失敗した大きな米軍輸送機の残骸がありました。その出来上がって間もないコンクリートの平坦な人影の他にない滑走路を私の左右にダブダブの作業衣の男の子が二人並んで歩いてゆきました。満月に近い月の光が余りに鮮やかで道路にうつる私達三人の影の動きが彫られた様に確かでした。それに西方の遥か遠くに夜の富士山が見えたのです。神秘的な眺めでした。

天幕から二時間近くかかってやっと着いた二十坪ちょっとの平屋のバラックには当時の職員方が歓声をあげ両手を拡げて迎えに出てくれました。廃材が周辺にいくらでもありましたから、ストーブの燃料に困ることがないので熱すぎる位の室に、芋雑炊でしたが食べられない位の食事が湯気をたてて彼らを待っていました。この日、この夜がそれから五十年今でも職員方の研鑽の下で続いている児童養護施設唐池学園の始まりでした。



(イラストもそのまま掲載)



平成 30 年度決算報告 (法人単位貸借対照表)

平成 31 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	435,742,593	流動負債	149,280,499
現金預金	232,554,229	事業未払金	119,678,073
現金	719,651	事業未払金	119,678,073
普通預金	231,834,578	1年以内返済予定設備資金借入金	18,242,000
事業未収金	178,316,686	未払費用	82,258
事業未収金	178,316,686	預り金	3,360
未収補助金	1,286,597	職員預り金	10,998,407
原材料	507,202	仮受金	276,401
グランドール事業原材料	367,296	仮受金	276,401
一服館事業原材料	21,392	固定負債	314,264,100
お弁当工房事業原材料	118,514	設備資金借入金	172,806,000
立替金	13,025,939	退職給付引当金	141,458,100
立替金	13,025,939	退職給付引当金	141,458,100
前払金	165,704	負債の部合計	463,544,599
前払金	165,704	純資産の部	
前払費用	9,428,336	基本金	618,305,701
仮払金	457,900	基本金	618,305,701
仮払金	457,900	国庫補助金等特別積立金	601,658,908
固定資産	2,248,254,308	国庫補助金等特別積立金	601,658,908
基本財産	1,161,349,648	国庫補助金等特別積立金(整備時分)	567,630,104
土地(基本財産)	281,734,025	国庫補助金等特別積立金(償還補助分)	34,028,804
建物(基本財産)	879,615,623	その他の積立金	672,764,254
その他の固定資産	1,086,904,660	人件費積立金	275,200,000
土地	73,390,200	工賃変動積立金	1,000,000
建物	128,672,768	施設整備等積立金	343,564,254
構築物	15,249,481	保育所人件費積立金	23,000,000
機械及び装置	7,320,028	保育所施設整備積立金	30,000,000
車輛運搬具	13,477,605	次期繰越活動増減差額	327,723,439
器具及び備品	25,195,371	次期繰越活動増減差額	327,723,439
建設仮勘定	1,000,000	(うち当期活動増減差額)	134,502,787
権利	1,701,200		
ソフトウェア	4,515,743		
退職給付引当資産	141,458,100		
人件費積立資産	275,200,000		
工賃変動積立資産	1,000,000		
自動車リサイクル預託金	81,910		
差入保証金	2,078,000		
施設整備等積立資産	343,564,254		
保育所人件費積立資産	23,000,000		
保育所施設整備積立資産	30,000,000		
		純資産の部合計	2,220,452,302
資産の部合計	2,683,996,901	負債及び純資産の部合計	2,683,996,901

※その他の詳細は、ホームページ (URL : <https://www.houjin-karaike-g.org/情報公開/>) をご覧ください。



協力会会費・寄附金をくださった方々の紹介

《期間：平成 30 年 6 月～平成 31 年 3 月まで (50 音順に掲載)》

赤羽てい子 様、出縄雅之 様、岩田泰子 様、(株)オウルテック 様、
 勝俣幸子 様、勝俣伸一 様、國次尚志 様・千絵 様、古塩幸子 様、
 齋藤政子 様、五月女美穂 様、(有)さがみ電化商会 (代)廣井愛旦、笹崎カズ工 様、佐瀬睦夫 様、
 塩谷寿子 様、女子学院 様、鈴木克政 様、スズキ工芸 佐藤光夫 様、高橋不二子様、
 東洋染工(有) (代)柏木静江 様、長井晶子 様、服部和子 様、原瀬克久 様、原瀬光子 様、
 ファヤ-ファイター・アリ-ション・ファント 様、福祉・医療コンシェルジュ(株) (代)小泉あずさ 様、
 藤沢北教会 様、松尾泰博 様、三崎たずゑ 様、明月堂薬局 様、森谷勇吉 様、山田すみ子 様、
 リサイクルの会 岩本廣子 様、
 その他 匿名の方々



施設からの報告

● 児童養護施設 唐池学園



平成 30 年 12 月 2 日に自動車総連 全いすゞ労連様から福祉車両 (ホンダフリード) の寄贈を受けました。全いすゞ労連様は毎年、「自動車労連福祉カンパ」で集められた募金を福祉活動の一環として活用し、全国の福祉事業所に車両を贈呈するなどの活動をされています。いただいた車両は、子供達の送迎などに大切に使用させていただきます。

● 障害者支援施設 貴志園

平成 30 年 12 月 10 日に一般社団法人神奈川県自動車会議所様から車両の寄贈を受けました。

神奈川県自動車会議所様は、神奈川県社会福祉協議会が選定した介護老人施設等へ、毎年数両の福祉車両を寄贈し、移動制約者の支援を行っております。いただいた車両は、送迎が必要な障害者の方のために大切に使用させていただきます。



ケアバン チェアキャブ

各施設では、その他にも物品の寄附やご招待など、たくさんのご厚情をいただいております。誠にありがとうございました。唐池学園及び各施設一同、感謝申し上げます。



令和元年度 イベントのお知らせ

それぞれのイベントに皆様お誘いあわせのうえ、是非、お越してください！！

貴志園主催「しらさぎ祭」のご案内

日時：9月22日（日曜日）10：00～15：00

会場：貴志園大駐車場とその周辺（綾瀬市吉岡 2381-1）

内容（予定）：ステージプログラム（太鼓演舞、大道芸等）

模擬店（焼き鳥、焼きそば、フランクフルト、ポップコーン等）

プレイスポット（ワークショップ等）



唐池学園主催「第46回 唐池祭」のご案内

日時：10月27日（日曜日）10：00～14：00（雨天決行）

※荒天等の場合、中止することもあります。

会場：児童養護施設 唐池学園（綾瀬市吉岡 2377-口）

内容（予定）：バザー、こども主催コーナー、展示コーナー

模擬店（カレー、焼きそば、ジュース、焼き鳥、貴志園パン、etc）

お祭り広場（ステージ発表、子どもクイズ大会、福引き）



【貴志園】

一服館 【手打ちそば・うどん】 TEL：0467-76-6206

営業時間：11：00～15：00 定休日：日曜日・月曜日・祝日

1階の店内でお食事できます。（テーブル席26／カウンター席9）



グランドール【パン工房】 TEL：0467-76-6206

営業時間：10：00～15：00 定休日：日曜日・月曜日・祝日

ご予約・配達も承っております!! ※ご注文・ご予約は、毎週火曜日～土曜日（祝日は除く）9:00～16:00

2階のテラス又は室内でお食事できます。



左の写真は、平成30年6月8日にテレビ神奈川の取材を受けたときのものです。



役員等名簿（令和元年7月1日現在）

*敬称は省略させていただきました。

1 役員

(1) 理事（7名）

鶴飼 一晴（理事長）

摩尼 昌子、富岡 貴生、田中 晃、笹野 つる子、佐藤 健、藤岡 陽子

(2) 監事（2名）

長井 晶子、柏倉 正

2 評議員（8名）

手塚 宏子、高松 邦夫、鈴野 敏、山口 晴一、今 壽夫、森谷 充子、

古塩 幸子、服部 和子

3 評議員選任・解任委員（4名）

長井 晶子、阿部 浩行、鈴木 美恵子、稲垣 美千子

4 第三者委員（3名）

照井 和か江、山田 すみ子、天笠 律津子

< 編集後記 >

充実した毎日を送りたいと思いつつ、できれば楽をしたいと考えてしまう今日この頃です。

どうしたら楽できるのだろう、そして楽しく過ごせるのだろうと考えていたら、同じ漢字が使われていることに気づきました。しかし「楽しい」と「楽」は対極です。楽しいことをしたいのなら楽はできません。楽をしようと思ったら楽しいことは諦めなければなりません。楽しんで楽しくというのは虫が良すぎる話ですね。楽なことばかりを考えず、楽しく過ごせるよう努力も必要なので、そのプロセスを楽しみたいものです。

編集委員を中心に、苦労はありながらも楽しんで作り上げた今号の雑品倉庫、皆さんにも楽しんでいただけると幸いです。

広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

発行者 社会福祉法人唐池学園協力会

編集者 社会福祉法人唐池学園 広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

編集委員 大西 律、梶田 寛人、渡辺 美香、吉田みき子、吉村真由美、小山 信、勝俣 浩之

事務局 神奈川県綾瀬市吉岡字芦久保2377番地口号 唐池学園内（担当：勝俣 浩之）

電話：0467-78-0514 Fax：0467-76-3006

E-mail karaike-honbu@bz04.plala.or.jp

※表紙は、児童養護施設唐池学園を正面から撮影した写真に加工を加えたものです。

社会福祉法人唐池学園の各施設の所在地等



法人本部・児童養護施設 唐池学園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2377-□

電話：0467-78-0012／0467-78-0514、FAX：0467-76-3006

施設認可年月日：昭和24年4月1日、定員：45名

グループホーム「ななの家」・「よんの家」定員：各6名



児童養護施設 強羅暁の星園

所在地：〒250-0408 足柄下郡箱根町強羅 1320-203

電話：0460-82-2853、FAX：0460-87-7275

施設認可年月日：昭和22年6月19日、定員：50名



乳児院 ドルカスベビーホーム

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2380-2

電話：0467-78-1054、FAX：0467-70-3827

施設認可年月日：昭和44年4月1日、定員：25名

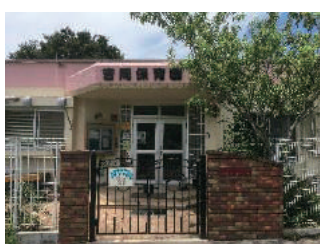


保育所 つぼみ保育園

所在地：〒252-1107 綾瀬市深谷中 5-20-48

電話：0467-78-0641、FAX：0467-79-2908

施設認可年月日：昭和42年5月1日、定員：110名



保育所 吉岡保育園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 1980

電話：0467-78-4324、FAX：0467-78-4365

施設認可年月日：昭和50年4月1日、定員：60名



障害者支援施設 貴志園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2381-1

電話：0467-78-4178、FAX：0467-79-5119

施設認可年月日：昭和49年9月1日

定員：入所30名 通所40名、グループホーム設置

総合支援法による、共同生活援助（グループホーム）、生活介護事業、就労継続B型事業、就労移行・定着支援事業、放課後等デイサービス事業、相談支援事業を行っています。

また、綾瀬市から、基幹相談支援センター、委託相談支援の委託を受けています。